

「科学する」から始まる発見と発想

去る九月十八日、長崎大学において、県立長崎北陽台高校と長崎大学水産学部とが連携して行っているサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)の学習発表会がありました。

SPPは独立行政法人科学技術振興機構(JST)が児童生徒を対象に実施する科学学習の支援事業であり、全国で推進されていますから、本誌の読者のなかには何らかのSPPに参加した方もいることでしょう。

長崎北陽台高校は二〇〇四年から指定を受け、水産学部の協力で「大村湾から広がる科学」を統一テーマとして八課題について体験学習をしました。具体的には夏休みの二日間、同校理科科二年生七八人全員が参加、大村湾をフィールドにして、水産学部教員ならびに長崎北陽台高校教諭が協力して指導し、学習を進め、その成果を二年生諸君が一年生に発表し、質疑応答を行います。

高校生の学習体験発表を聞くのは私にとって初めてでしたが、とても興味深く、とても楽しかったです。「大村湾の魚でかまぼこを作る」とは、かまぼこを作るときの前処理である「水晒し」によって味や風味がどう変わるかについて、自作品の官能検査(弾力性、匂い、色、うまみなど)結果を発表しました。魚介を処理するいろいろな機械に興味深かったと述べました。

「長崎近海に來遊する魚類の外部形態と内部形態の観察」ではマジ、シログチなどの体長と腸の長さを計測して、餌がプランクトンであるか、小魚であるかによって、腸の長さに違いが

出るのではないかという結果でした。また解剖したマジを唐揚げにしておいしく食べたが、このときマジからいのちの大切さを教えてもらったと述べました。皆さん、スライドを使うなどプレゼンテーションも見事で、とても感心しました。「いまどきの若い者はどうも」という言葉を、私たちはつい使いがちですが、決してそんなことはない、皆すばらしい若者たちだと感銘を受けました。

長崎北陽台高校は大村湾のそばにあります。生徒の多くにとって大村湾は日頃から見慣れた何の変哲もない風景であり、また、自宅で夕食に魚の唐揚げが出て、おいしいとは思っても、それ以上のことは考えなかつたかもしれません。「科学することにより、物の考え方や見方が変わる」というか、広くなり、判断力が身に付き、着想や発想にも深みが増すと私は考えます。

長崎大学が協力し、県立長崎西高校生物部が中心になって行った「全国スーパーサイエンスハイスクール(SHS)の共同による耳垢型対立遺伝子の全国地図作成の研究」が九月二五日に日本人類遺伝学会特別賞を受けました。とても嬉しいニュースです。長

崎大学は高校生の皆さんが「科学すること」に、これからは大いに協力したいと考えています。科学する青年よ、長崎大学に來たれ一緒に科学しましょう、楽しいですよ。



長崎大学長 齋藤 寛
Saito Hiroshi

追伸：
学長メッセージ(<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>)にもアクセスしてご意見をください。
[メールアドレス]president@ml.nagasaki-u.ac.jp
必ずお返事します。

<CONTENTS>

《特集》放射線医療科学の先端を目指して 1 ～長崎大学が取り組むグローバルCOEプログラム～	《留学生のキャンパスライフ》フロレンシア・デル・プエルト さん(パラグアイ) 15
《フィールド通信》ケニアの空の下で 7	《We Love Circle》卓球部 16
《いいか放題》長崎市長 / 田上富久 さん 10	《文化財の保護》登録有形文化財へ～キャンパスで見つけた美と歴史～ 17
《自然災害を考える》長崎の安全と安心～雲仙普賢岳の火山災害～ 12	《長大ニュース》 18
	《古写真・はし万華鏡》天神橋(1) 20
	《インフォメーション》・《編集後記》 21